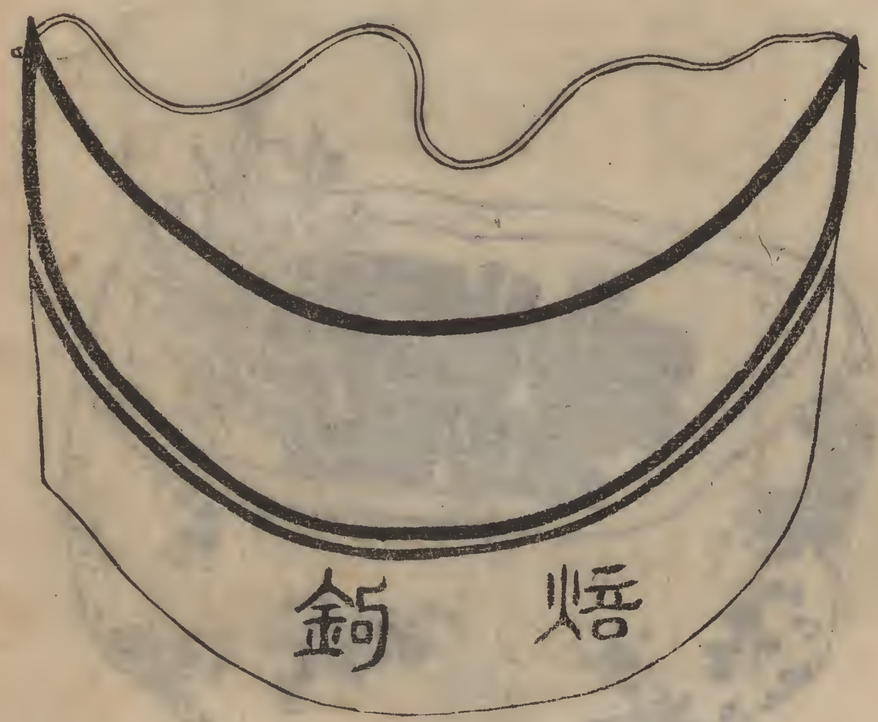
水注鉛

496

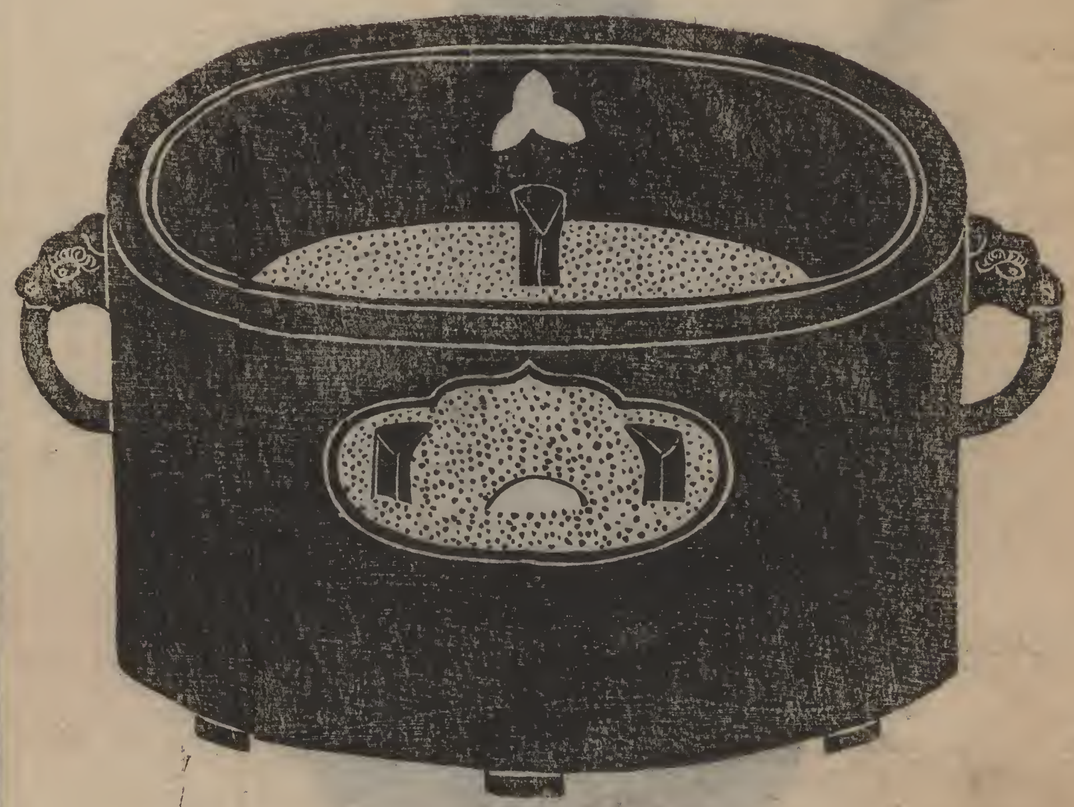
水注

焙鈎



鈎　焙

茶鍑



炭斗

茶注　遊外居士銘

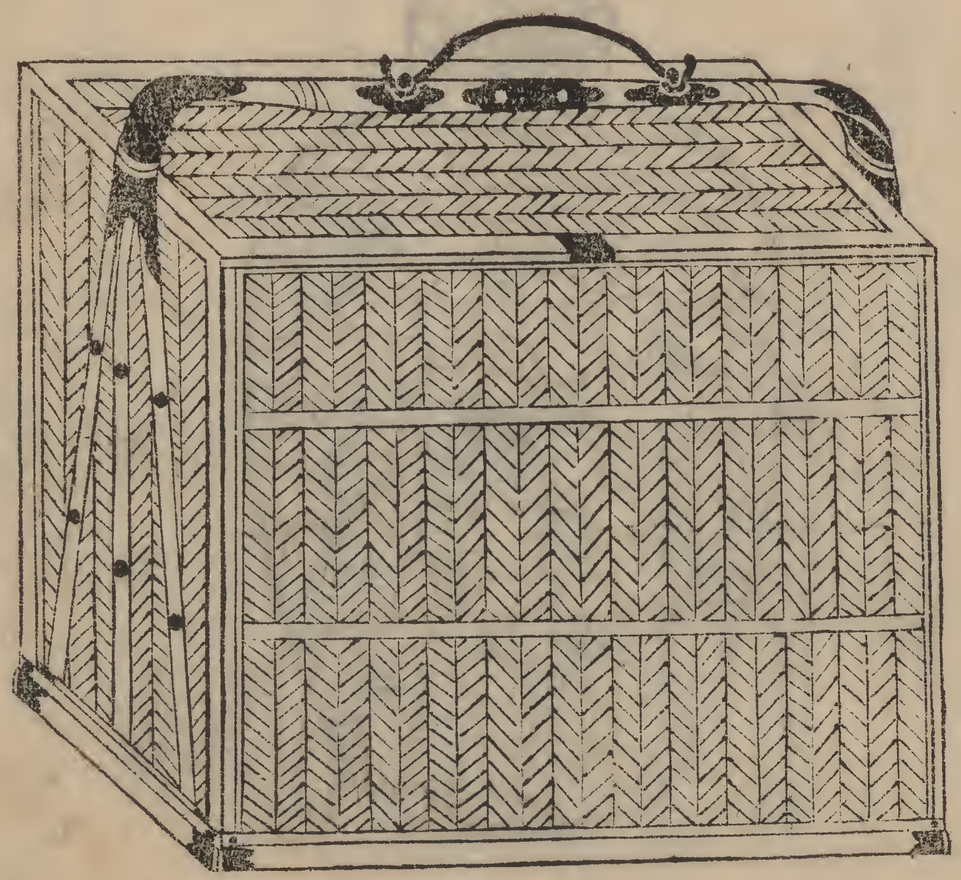
包肓

一圓窻裏

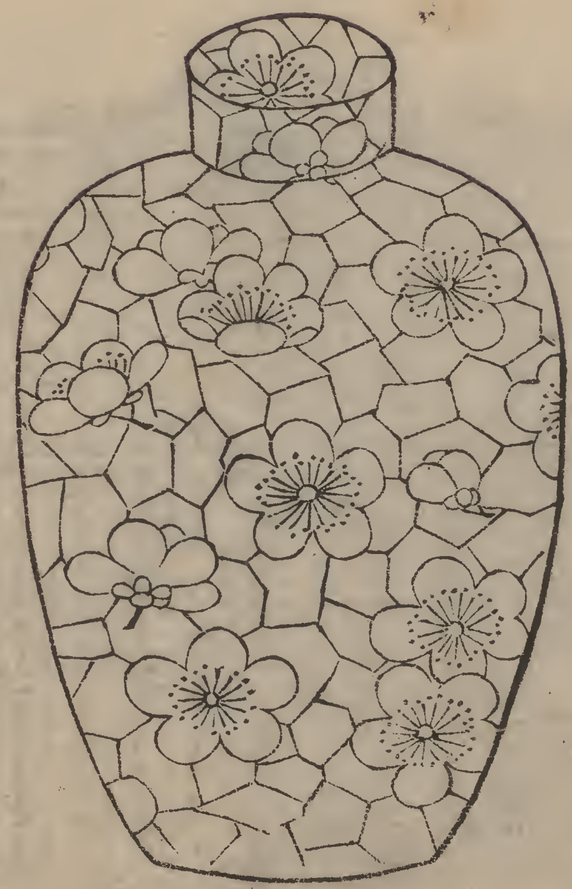
葆光

嵩山川題

火管羽扇



建城



水注銘

參政滕宣季卿

提梁銅器、貯惠山泉數碗、洒處冷徹茶莚。

茶鼎銘

朝鮮國典籍學士仁則矩軒

三峽之水、烹以文火、瞳後一碗、吾今衰我、纔烟続蒼、圖書如画、不平之鳴、有時澎湃、磅礴之胷、一呑可化。

包育銘

埜堂顯杜多 日初禅師

空腹高心、皮下無血、能養妄火、與我同轍、

焙鈎銘

高遊外居士 賣茶翁

去其濕、取其乾、半鈎煮月懸雲上、

炭斗 造瓢銘

東湖散人 相國寺慈雲菴 梅莊

無用之用、率性斯宜、克守其黑、式緝其熙、

火管銘　　嵩信四川

頑固炭子、吹覚無明、度生高客、何若管兄、

羽扇銘　　同

鵬鳥搏去、南溟起波、

瓢杓銘　　同

許由高捨、吾祉樂之、長流無心、汲彼漣漪、

建城銘　　三山董柯亭華人名密

雪乳珍藏　四字名

春壺銘　　姑蘇沈草亭華人名璠

美哉此壺、非玉非金、非寶非晶、收貯龍團、包涵鳳茗、賞吐梅花、體遠氷紋、凝藏元氣、保蓄天眞、華筵不雜、騷幗相親、盧仝注受、陸羽交神、

浪萃雅士寶此如珍欲素干後乞予是銘時己巳仲冬于長崎舘著古茶壺銘

品司銘　　嵩信四川

籠劈湖竹、織成波文、建城數樓、一鎖清晝、

通仙局銘　　仝

管摂茶具、遠伴緇青、滌煩令爽、當通仙靈、

風爐銘　行省收　　仝

周轉自在、從月因風、活火煎動、白雪丹楓、
火管銘 三言 嵓信四川
待彪嘯、有翟生、一線窺、發松聲、
水注銘 納行省
江山甘泉、帶落蒼波、和秋光吞、自滌俗習、吾沁枯腸、朱
門莫入、
全
焙弦銘
出花間、半輪光、不借手、發芳香、
烏瓢銘
全
胡蘆腹裡、松卵烏銀、雅素天造、用來催春
全
提籃銘 二句
間人一歲忙花月、茶具半肩對石泉、
全
又 二句
收山水奇觀、吸嵓嶪秀氣、
全
風爐外匣銘 六言二句
六合匣中含靈、一圓窻裏葆光、
全
茶銚銘
三足俯地、一流迎天、清薰透銚、轉簇雲烟、
全
注子銘
誰謂漏逗、持而守之、大口不語、冷暖自知、

提籃銘

籃納ニ須弥一、銚朝ニ四海一、飢食渇飲、剛翁無待、

火管銘　全

空洞無物、噓破閒来、畢方飛揚、其徳勇哉、

茶品景

蘭茶　除蘭茶ハ其外茶ハ皆舶来茶ニ珍品揚の巻ニ入来る掛目ハ左ニ有リ

松蘿　舶来のものニ蘇州閶門ニ近き虎丘山ニ産ス一名ニ白雲茶ト一名ニ白毫茶ト一名ニ白芽茶ト一名ニ雪芽茶ト一名ニ雀舌茶ト一名ニ蝦鬚茶ト一名ニ龍爪茶ト一名ニ鷹爪茶ト一名ニ蓮心茶ト一名ニ碧螺春ト云ニ書ヲ序ニ曰ク虎丘ニ有名僧号ヲ松蘿ト為ニ喜カ烟霞ニ隠ニ居ス山野ニ云ニ他人ノ始テ製ヲ茶ヲ故ニ名ヲ松蘿ト一ツ説ニ始テ此ヲ茶ヲ製ス故ニ名ヲ松蘿ト一ツ説ニ考

武夷　此茶武夷の名茶ニ近キ色ニ黒ク白キ点アリ味ハ松蘿ニ劣レリ此茶ハ舶来ノ茶ニ不ル多シ

唐茶　あるよりぬく舶来ものゝ茶ニ於テハ別ニ製ス

一ツ山　雁音　山吹

春風　喜撰　政所

朝日山　政所初葉

右拾六種江州信楽ニ産ス一名ニ杣ト云ヒ茶ニ非ス一名ニ宇治ノ茶ニ非ス

花橘　江州庭根より八里ばかりの近き所ニ産ス年製ス多ニ非ス

茎茶　珠洲宇治産茶の茎也

初緑　湖渓　越後　初山吹

龍田　一ツ森　冬梅　祈鷹

室生（ムロフ） 大和産
服部 伊賀産
仙霊 播州粟賀生蓮寺産 霊玄院法皇ノ御勅名
本葉 薄葉 此両種越城州高雄山ノ産日本茶ノ始テ産ル所ト云
草山 高泉寺 明石 此品冊後ノ産
足久保 駿州産
吉野茶 和州産
北山茶 和州産
川俣茶 勢州産
高野茶 紀州産以浪華水烹レバ甚悪シ山水ニ宜シ
日向茶 疏茶也無精製者
完栗（レンソウ）茶 数品 播州産
カナコレキ 豫州宇麻郡産
相樂茶 肥前産
筑後茶 上品

清見 駿河産
河越 武州産

輸違 濃州茶

名水品彙

葉室 城州醍醐産

賀茂御手濯川 城州洛外下賀茂社流水斯泉華洛第一ノ水トス別ニ烹茶ホロシ甚水甘ク冷ヲリ大ナルアリ水甚濃ク茶ノ可否吉田ナル井水ヨハシ賀茂ノ水ヨハシトモヨシ
菊水 京祇薗下河原ナル井水ヨリ第水ヲ同シ此ニ三ツ
明星水 吉田ナル井水ヨリ第水ヲ同シ此ニ三ツ
飛鳥井 京二条ホトリ名ヲ云ヒ社アリ
手水井 四条烏丸
醒井 佐女牛通六條北
常盤井 武者小路新町西北方
清和水 一条堀川東
杜鵑井 油小路通中立売下ル東側人家内
少將井 大炊御門南 西洞院三条通東側人家内
柳之水
晴明水 上ニ同

右洛陽洛外大概之名水挙之

合坂水　天王寺西門之西湧泉也　又云今用逢坂字誤也其処有合坂辻用此字可也

在栖清水　新清水寺下湧泉柄之水

難波水　南瓦屋町井水　雑波村の井水也

黄金水　御城内井水　愛宕水　内久寶寺町井水

右大坂近邊之名水也　淀川　長流水

論水

本邦論名水書余未見世上茶家称流の口訣云千阿弥利休山城宇治川の橋之の間孔水日本第一のよしを記むと豊臣太閤常ふ汲ませ茶の湯ある見ひろめよと云至今波速

汲水所ふよ浮もしまたよしと云利休の事流片桐石見守貞昌この水を汲秤量二十秒目をもとふ盈を知り亦人の点茶ふ方ふ汲方合掛(カフノカケヤウ)よと余ふ述を待ふ法方のみを学ふ量大概なよ法を物ふよ水物ふをしてぬ要を得ふよ山水ふ乳泉ふ他の軟よふさあり雑穢混合して流ふ川よ物ふさあるよ述を物ふよ流ふみを水ふよ濁ふよのハ物ふ乳泉の軟ふふ公今云用地中ふもふさふふよのハふハ流ふみて要ふ此教ふふさふふふ要ふふふ汲ふ物ふ物ふふふふ

よくさ味あるやうなれども舌に酸あるを含めあり古氣ありて淡
さ味ありて香あるのもの悪しきにはあらず甘きあり好あるまた掬よ
ふ所ハ其水甘美にして香氣のあるものなり名泉の定むる所ハ其水甘美
ハあるもの多くハ香氣あるものなり故に香氣あるものを名泉とす
を汲ハざるの類なり見て考べし

遵生八牋ニ曰源泉ハ必重而泉之佳者ハ尤重ル餘枕徐隱翁
可レ見仙源之勝ル景ニ阿姥墩百花泉ニ便不レ及ニ五泉
もる活るハ多くハ水のよきなり
もバかさらずしてさらさらとして強ふるごとし

水輕重考

金城中黄金水 二十目五分
冽寒泉 二十目五分 余宅茶井也
有馬鷹塚清水 廿一匁六分 石泉掬上て甘
舟坂清水 有馬道掬上て甘
瑞寶寺水 有る京口ニ用水 廿一匁
大坂愛宕水 ちくらやし
在栖清水 (アリスガノ) 同所清水寺下
京下河原菊水

淀川水 十九匁四分
有馬湯山一ノ湯 用ゐる廿一匁六分
二ノ湯 用ゐる廿一匁六分 五重
亀尾瀑 廿一匁五分 多至極悪し
宗悟川水 名ある玄性川東小川 舟坂ニハ不及
同所瀑泉 ちくらやし
合坂水 大坂天王寺西
維(イ)波(ハ)橋(シ)水
京杜鵑井

加茂手濯水　明星ヶ

出雲国風土記に那賀郡志毘の峯の名水あり
古代人は自然に感謝の一つであらん

煎茶仕用集巻之下終

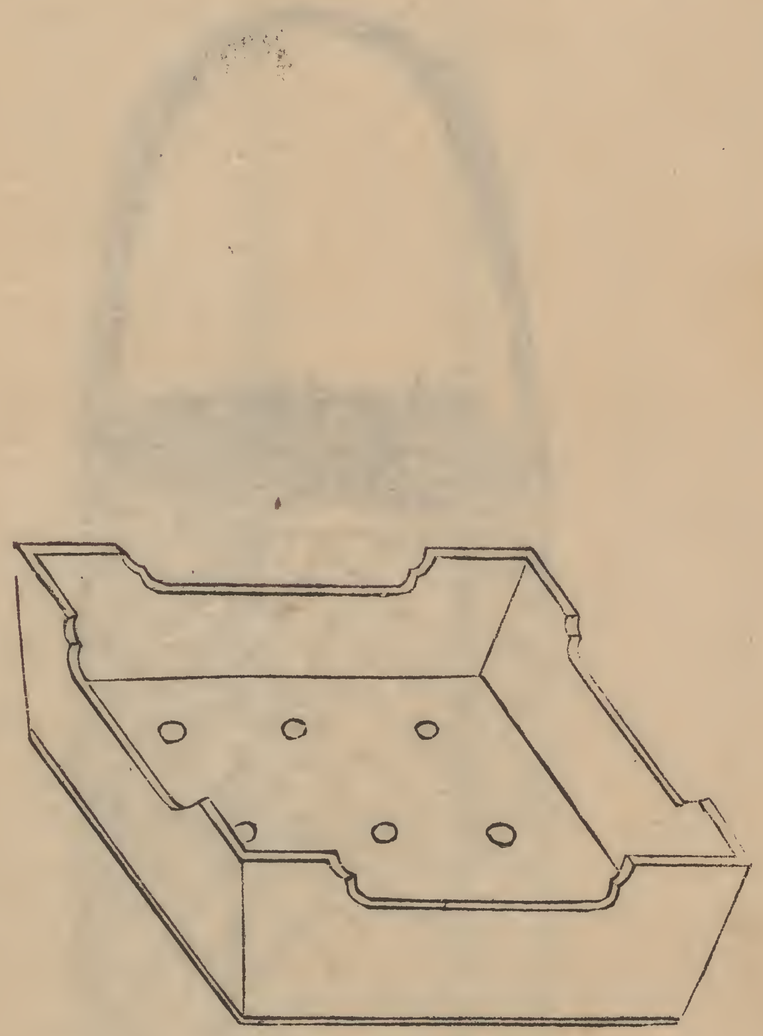
煎茶七要之具

湯ヤ提（ツギ）點

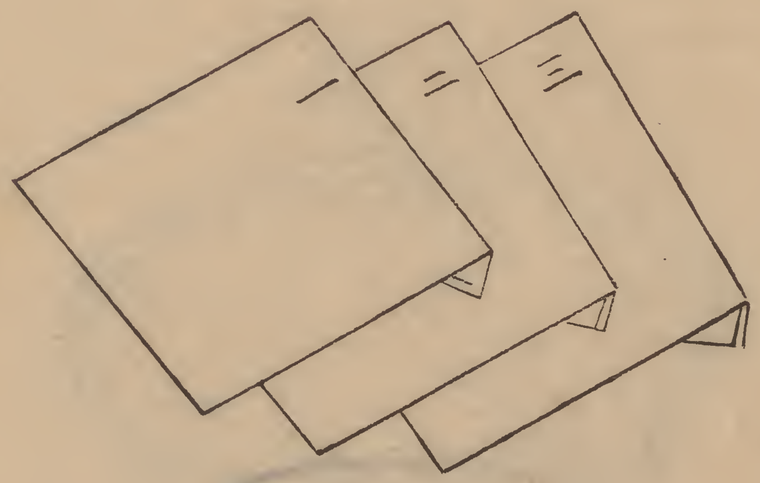
盞ノ茶チャ

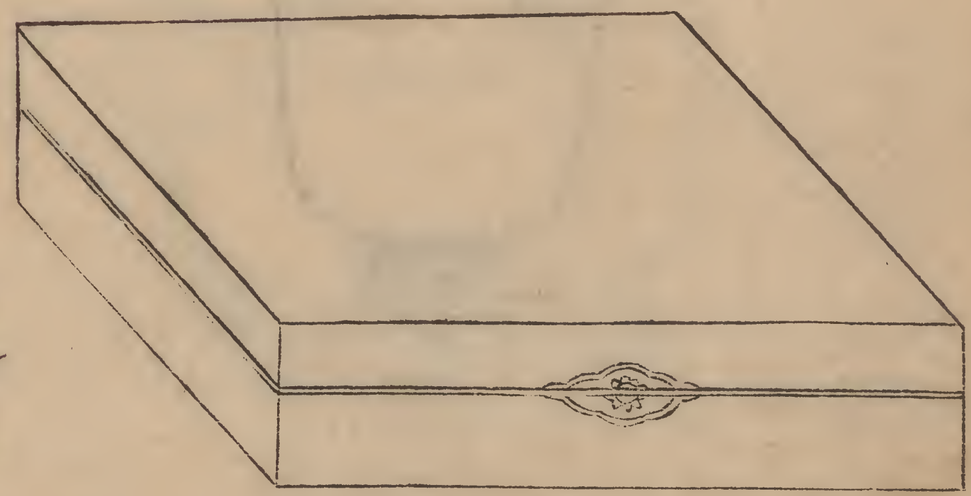
爐ロ風フ

茶盤（チャバン）



帋嚢（ニヤノフクロ）





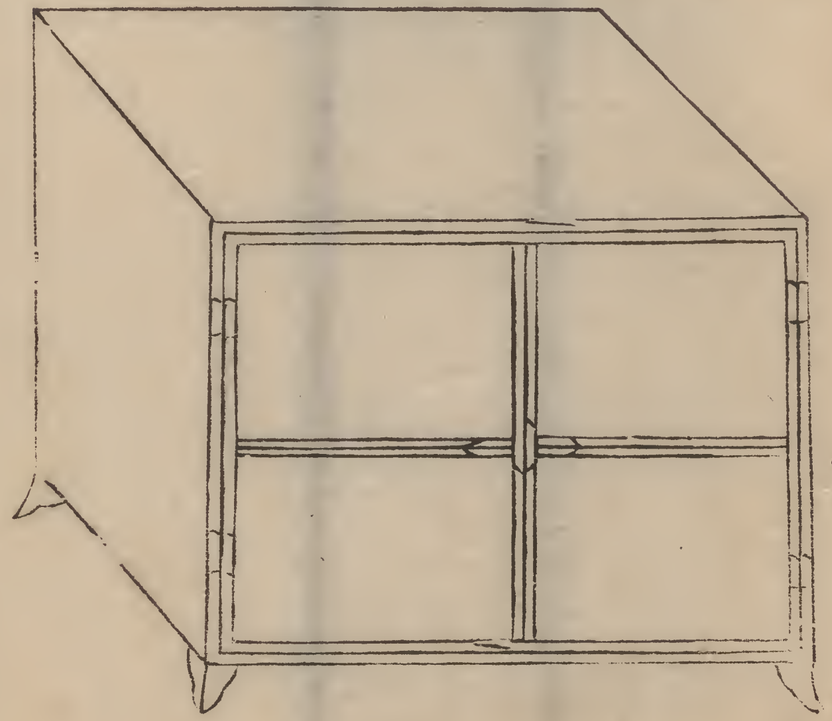
嚢納ル箱

火矢（ヒバシ）

烏府（スミトリ）

品（チヤ）

局（タンス）



圍棊ニ要具先ヅ七ツアリ湯提點爐棊盞
ノ次ハ三篇ヨリ棊局棊子ヲ入ルヽ棊笥ヲ
乃セヨリ棊磬烏府大笑ヲ添アリテ右局ハ右ノ七
ヲトヽノヘオクベキモノニテ次ハ爰ヨリ
闘茶新式 小引

圍棊（クミカハス）ノ起リシヨリ久シ
唐東ガ圍棊ノ紀范希文ガ圍棊ノ次アリ又圍棊ヲ遠
人棊戰トヽヨリ范氏歌ヨ曰其間品第胡（ナンゾ）能ク
欺（シヤ）十目視而十手指（ス）トヽヨリ今香会ノ式
ヨ擬（ギ）シテ（ナゾラヘ）今新式ヲ著ハリヨリテ其圍棊トヽハ

人集りいろ〳〵の茶をおもて点ものをさゝげ
賞さゝげすゝめ〳〵て式あることくさ〳〵
いまざる雑談の中ゟ其主客より其
あらざる〻余〻茶学をより
まをはざるものゝ題茶あり流ゝもむりきく茶ゟ
ものありく務方のれを入ゝく務員を定めー事ありて
宗旦老人ゟ其ハ茶れ欲(カヾ)茶技(ブキ)ゟゝそあるとして児戯(ジレ)
ゟ似くおゝしゝざる〻事を笑(ワライイヘシ)ふかゟ未を信
法の後茶(トモガラ)欲茶技ゟゝくもとして児戯
ふけ剛茶ゟ遊戯の如く収て児戯ゟ教ゟ荘の士茶門

の老ふれ教べきゟゝはあらざ

闘茶通例

○凡水一合ふ茶の月一銭用ゝ定

○茶盞(チャワン)ハ黒色のゟ其を用ゐべし此事茶談ニ載ゟり此ゝ

茶ゟをんゟゝ在ますこさがおゝり

○試(コヽロミ)ふ其茶を明(メイシ)試ゟゝ其身性ゟ名をゟゝ飲ゟもる

を暗(アンシ)指ゟゝゟゝり

○凡茶一盞ハ二匁(シャク)ゟゝべし

中十人ゟゝバ水二合茶二銭目ゟゝ十盞ふゟつべし始

ゟりの云合ゟゝ一合を云盞七盞ゟりゟもゟのへし

茶をあく飲しもの（行フ）

○茶をもむ（煮）人を茶を烹る人を雇府

○茶会連中を班列（ハンレツ）して（ヒン）茶を飲（ノミ）それを牌（ダイ）と云茶を汲（クミ）人を深事と云務ハ務（ツトム）貢ハ労（ロウ）と云（イヘ）

○剛茶飯抔と作（ツク）て必菓子をもてなす（ナス）れバ（ハ）茶の数奇（スキ）ハいづれも悪（アシ）し菓子ハよき歟（カ）悪（アシ）き歟を見（ミ）べし（ベシ）乾菓子の数を見（ミ）べし（ベシ）香ある茶杯（サカヅキ）をうばひて悪（アシ）しと云（イフ）。蕾（ツボミ）ぬ菓子ハ渇を止む少く茶を飲よ悪（アシ）し

菓子を喫して抔必（テアラヒクチスグ）盥漱（ユスギ）べし（ベシ）もってのほか（ホカ）ぶれハ茶味悪（アシ）し

○茶のかけ目（ニー）の分種を定むとも烹（ニー）時違（チガ）ひ後

茶あるとは云（イヘ）ども味ちがひ抔（ナド）明（ルー）瞭（リョウ）と弁（ワキマ）へ（ヘ）がたし（ガタシ）

悪（アシ）しき分を見（ミ）悪（アシ）しと見（ミ）べし（ベシ）

のたぐひ（ヒ）よりもってのほか（ホカ）ぶれ

○茶盞ハ人数（カズ）ほどそろへ（ヘ）を一名（メイ）茶をつぎ（ツギ）あてべし

○茶盞ハ人数（カズ）ほどそろへ（ヘ）を一名（メイ）茶をつぎ（ツギ）あてべし

汲（クミ）運（ハコ）ひを迅速（ジンソク）にて濃渫（ノウタン）お遅（オソ）きハ悪（アシ）し茶壷茶盤

○茶箱ハ水二合を定（サダ）べき（キ）ものを十個（コ）入（イレ）おくべし

或ハ壷を十八ヶ所（ショ）箇（コ）ほどそろへ（ヘ）おくべし

そろへ（ヘ）ざるハ悪（アシ）しとなり（ナリ）

結又ハ袱紗（フクサ）などを二ヶ所（ショ）きっと（キット）おとなり（ナリ）

（茶中要茶焼茶瓶の名ども知（シ）らざるハ悪（アシ）しとなり）

圍棊式

圍棊の小牌（ショウハイ）を作りそれぞれ名目四字の古事を書き分ち明窓の人より投げ出す時列座の人〳〵を集一ツ〳〵人数十人ぶんぐるに或ハ二人四人六人八人偶数ならべし集一ツを人数ぶんより五分の一ツ〳〵引目を定め中ぶ集に名と集ぶんの号とを書き置招いて〳〵おく秀合の式の〳〵を紙の包たる〳〵さく人数ぶんの集事を換〳〵ぶんぶん混いつを〳〵ぶんと一包を煎じ〳〵あらべし〳〵をたてぐさむ次ぶあらとたの一ツ〳〵

宝むニ籟斑（ザンウ）列嘯〳〵〳〵〳〵たよ〳〵〳〵〳〵〳〵たの牌たよ〳〵と〳〵〳〵で右ぶ牌（フダ）をもたへ〳〵いつをも牌たの文字のそんやうよ〳〵ぶ伏してあら斑列〳〵ぶ〳〵〳〵〳〵〳〵

左二　負　王蘭　茶主　英川子

　　某　某　某

右二　勝　仙霊　茶主　青嶺子

　　某　某　某

左三　勝　花橘　茶主　翠嵐子

　　某　〃　〃

右三　負　輪違　茶主　幽芳子

　　某　〃　〃

左四　持　高尾（タカヲ）　茶主　紅旭子

　　某　〃　〃

右四　持　翠鳳（スイホウ）　茶主　霊川子

　　某　〃　〃

左五　負　薄葉（ウスハ）　茶主　竜洞子

　　某　〃　〃

右五　勝　武夷（ブイ）　茶主　陳缶子

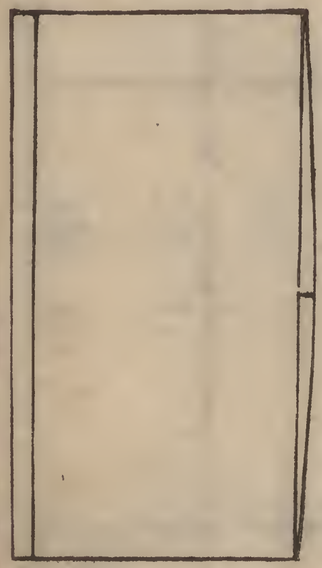
　　某　〃　〃

　　支干月日

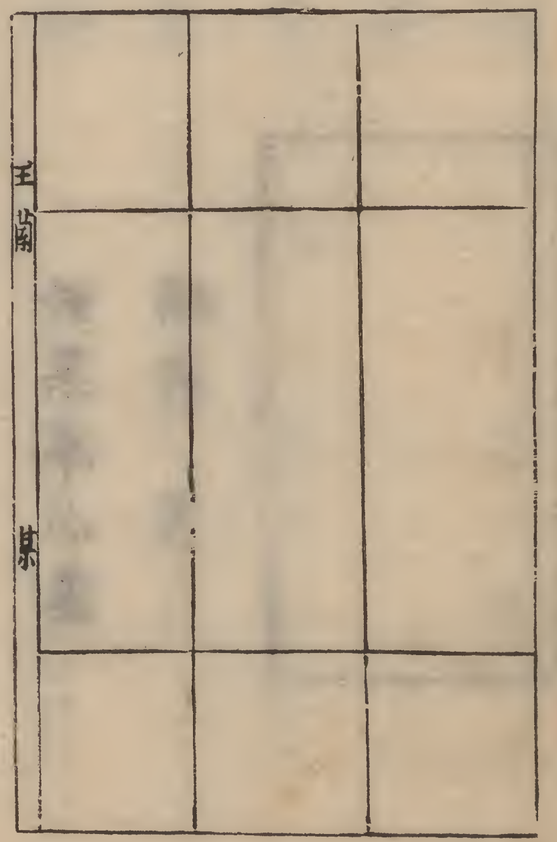
　　於某亭小集

　　明府　某

茶裏紙畳摺（チャツヽミカミタヽミテノヅ）之圖



同開之圖



廿細くさらさし一面を要所のみくさらさらみをつくべし

通仙式（ツウセン）　暗指（ソラユビ）にて

廿剛柔ハ組香の玄（ギ）よ擦しもくしてうつくしめ用紙二枚を返し暗指と重ねて玄盆を包ぐ玄盆通（スト）ニ仏靈ニ云ふ小間てんづく

柔二分　一　二　三

太こゝの柔量月人数より定くこ二嚢つくらくべし

め一二三とより煮あし一班列（ザチウ）よ欠しめ浴くのち一二

この玄くし玄をとらくこ書こ原嚢ニのうち混ぜ

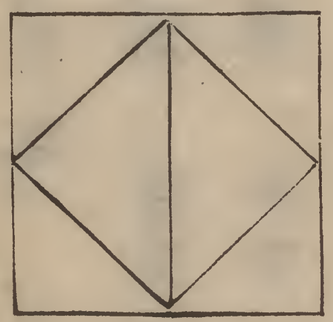
よりとりとこ煎しもの玄各欠く牌をうつべし

希こゝを移こ牌ハ打番こ書ニのあして一二この書分をし

く牌をめべしとりもし採手こ参加せしむべし

各二嚢つゝこ云嚢

折君圖



牌之圖

一

裏

龍焙

表

牌表記

龍焙　鳳團　露芽　雲花　清神　通仙　素濤
白雪　雲脚　仙掌　以上十品牌數三十枚十客用之
右の〳〵表示皆は一二三と書て十客の用四十枚なり　玉川式の如

通僊弟品記

某龍焙　一冬梅
二三一　茶名　二一ッ山
　　三棣棠
　　皆

某鳳團　一三二
某露芽　三二一
某雲花　一二三
某清神　二三一

支干月日

玉川式

於　何齋小集
茶主　某
明府　某

一　一　無
皆

此式を玉川と号るは盧仝（ロドウ）が名なりとて七盌不得喫（スヲ）の詩に盧仝が茶盌は四盌にて試ふさ

ものし用ゐ来喫セもの一盤あるハ玉川或ハ名物
茶ニ而　一二嚢　二日客　一嚢
右抹茶ニ而煎ーあるハ数種ニ而点給ふ時ハ嚢ニ而
いづれニても一ツ宛ニて煎ーおのおのニて用ゐる
第一不入ときハをとく味あるハ
あるハ紹鷗の例ニ用ゐ第一不純よハ抹(テン)ニ畫ゟ一人前ハ
二抹ニ而ーべし　此孫の書式ニ通ず可し

奠茶仕用集附録終

享和二年壬戌冬

大坂書林　心齋橋北久太郎町　柏原屋清右衛門
江戸書林　心齋橋順慶町　塩屋忠兵衛
西村宗七